

自然ふれあい講座(セミぬけがらを探せ!2022) 実施報告

Report

自然ふれあい講座(セミのぬけがらを探せ!)は、毎年同じ時期同じ場所でセミの抜け殻を探し、その種類や数を調べることで自然の変化を観察し、地球温暖化など環境の変化について考えてもらうためのものです。

私がこの講座の主担当になって3年目、ようやく全6会場で開催することができ、関係者一同ホッとしているところです。できてよかったというのが正直な感想です。2020年は、コロナ感染症のため年度当初に中止判断をし、2021年は8月1日に飯田会場で実施した夕方、研究所のある長野圏域がレベル4に引き上げられ、「新型コロナウイルス特別警報」が発出されたため、それ以降の5会場は全て中止になりました。今年も7月になって感染者数が急増し、確保病床使用率が50%に迫る中、感染症対策を検討し、対策をしっかりと行いながら実施という判断になりました。毎日が数字との睨めっこで、行動制限が出ないことを祈りつつの実施でした。

全6会場で132人(うち、子ども79人)の方に参加していただきました。参加者のアンケートでは、満足が85.7%、おおむね満足が9.9%で大半を占めました。「中止にならず、参加できたこと、ありがたかったです」や「子供と楽しみながら、自然環境調査にも参加出来たことが素晴らしい体験でした。来年もぜひ参加したいです」など、多数のご意見や感想がありました。皆様からのご意見等については、研究所のHPに掲載しています。ぜひご覧ください。

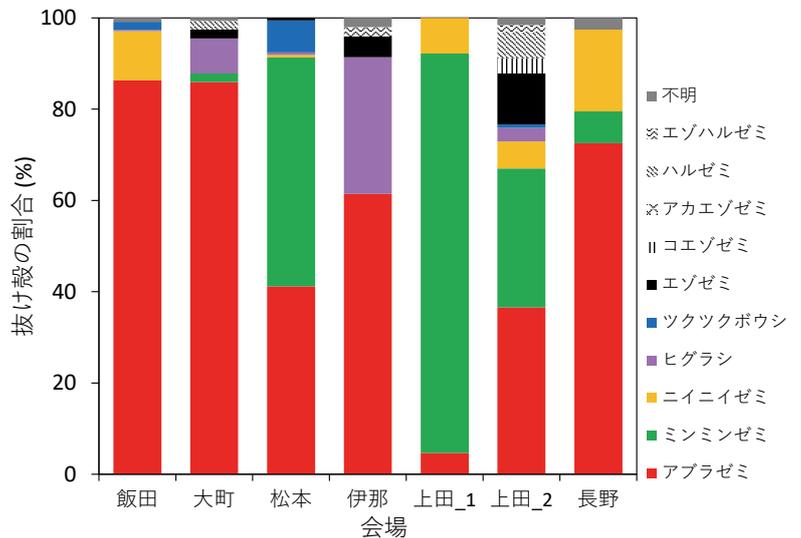


図. 各会場におけるセミの抜け殻の総数(上の数字)と各種の割合。
上田_1は染屋の森、上田_2は市民の森公園を指す。



写真1. 家族で集めてきたセミの抜け殻を分類
(松本会場)

ことなどから、子どもたちがより楽しめる場所に変更することを関係者の方と相談しました。その結果、昨年夏の事前調査で、抜け殻の数も種類も多い市民の森公園に変更しました。今年の結果を見ても良かったかなと思います。この講座は、気候変動など環境変動とセミの抜け殻の種類や数の変化を長期的にモニタリングすることも兼ねているため、染屋の森についても今後モニタリング調査を継続していく予定です。

このイベントは来年以降も継続していく予定です。興味のある子どもさんやご家族のかたはぜひご参加ください。

(堀田 昌伸/自然環境部)

今年は、コロナ感染症対策として、あるスタッフが対応する家族を決めて、適切な距離をとりつつ、説明したり、質問に答えたりしました。この方がより丁寧に対応できたのではないかと思います。この方法では、スタッフの力量にあまり差があってはいけないので、スタッフの事前の勉強、説明するマニュアルやサンプルとなる抜け殻の充実が必要です。

今年のもう一つ変更したことがありました。これまで上田は染屋の森を会場としていましたが、抜け殻を集める場所と分類する場所が離れていること、年によって抜け殻が少なく子どもによっては抜け殻を数個しか



写真2. 家族ごとにセミの抜け殻探し(上田会場)

